

甲状腺検査 甲状腺検査 先行検査結果に対する見解

- これまで施行されていなかった子供の甲状腺検査を行うことにより、ほぼ一定の率で甲状腺がんが見つかり、細胞診の結果悪性ないし悪性疑いの割合（一次検査受診者に対し）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
0.03%	0.04%	0.04%

第20回福島県「県民健康調査」検討委員会資料

- 福島の先行検査で見つかり、放射線の影響とは考えにくいと思われる根拠
 - ・福島での被ばく量が、発がんリスクを増加させるほど高くないこと
 - ・東京電力福島第一原子力発電所事故前に知られていた小児甲状腺がんの年齢分布とパターンが似ていること
 - ・地域別に線量の差が知られているにもかかわらず、がん発生の地域差があまり見られないこと

○原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）の2015年白書※の中で、「放射線被ばくによる甲状腺がんの過剰な発生は考慮に入れる必要がないとみなされている。」との認識をあらためて示した。

※東日本大震災後の原子力事故による放射線被ばくのレベルと影響に関するUNSCEAR2013年報告書刊行後の進展（国連科学委員会による今後の作業計画を指し示す2015年白書）

**放射線の影響をみるためには、長期間経過を見守る必要があります
皆様の健康管理のためにもぜひ継続してご受診ください**